

令和元年度(2019 年度)
学校関係者評価委員会報告書

評価対象期間

自：2019 年 4 月

至：2020 年 3 月

令和 2 年 6 月

学校法人菊武学園

専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院

学校関係者評価委員会

学校法人菊武学園 専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 学校関係者評価委員会は平成元年度（2019年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 日 時：令和2年6月4日（木）10時～12時

2. 場 所：本校4階ブライダルサロン

3. 出席者：学校関係者：

榊原 哲夫（ブライダル業界関係者）

井上 幸信（フラワー業界関係者）

天野 民子（ビューティ業界関係者）

梶原 幹史（有識者/元高校教員）

後藤 潤 （卒業生/同窓会長）

高木 裕子（在校生保護者）

学内委員：

中川 信子（校長）

蓑島 哲也（学事課長）

鈴木 順子（事務課長）

欠席者：なし

4. 配布資料：令和元年度自己評価報告書

入学・就職・中退報告書

本校2021年度学校案内パンフレット

後援会便り

「建学の精神」 「学校理念」 「学校目的」 「育成人材像」

学校法人菊武学園 建学の精神

本学園の建学の精神は「職業教育をととして社会で活躍できる人材の育成」であり、本校教育の基盤である

学校理念

「本物志向の教育」、「国際教育・教育の国際化」、「師弟同行を踏まえた教育活動」、「学校文化」

学校目的

豊かな感性、高い道徳心、たくましい心身を持って、地域社会において信頼される人間、かつ、自分の一生において果たすべき役割を自覚し、進むべき道を主体的に切り開く人間の育成

育成人材像

1. 地域社会、国際社会の動向に目を向け、より良い社会の実現に向けて主体的かつ積極的に行動し、貢献することができる
2. ブライダル・フラワー・ビューティの各分野における専門性の基礎となる幅広い教養を深め、専門的な知識・技術・職業理解を身につけている
3. 他者を尊重し、多様な価値観を受け止め、様々な人々と円滑にコミュニケーションを図ることができる
4. 自らを律し、課題を発見し、他者と協働して課題解決のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる
5. 身につけた教養や専門性をもって他者に寄与できることの幸福やその重要性を深く理解することができる豊かな人間性を有している

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切＝4		ほぼ適切＝3	
	やや不適切＝2	不適切＝1		
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・関係業界・保護者等に周知がなされているか	4	③	2	1
学科の教育目標・人材育成像は、業界のニーズに向けて対応しているか	④	3	2	1

○本校の理念・目的・育成人材像を教育の根幹に据え、日々教育活動に邁進している。

本校の有する学科は「ブライダル・フラワー・ビューティ」の3分野に渡っており、本校の職業教育の特色は、「社会で即戦力として活躍できる学生の育成」である。

○今、求められている社会のニーズに学生が応えていくことができるように、各分野の専門知識や技術の習得のみに留まらない教育を目指している。3分野とも接客を基本とすることがその業務内容であることから、社会人としてのビジネスマナーやおもてなしの心を身につけた「お客様から信頼される職業人」となるよう徹底した指導を行うカリキュラムを編成している。

今後に向けての方策

○学校の基本となる、理念・目的・育成人材像等に関して、十分な周知が得られていない。

オープンキャンパス・HP・学校行事・HR・学校発行物・企業訪問等を通して、より広く知らしめてゆきたい。

○教育の質を更に高めるために、最新の業界ニーズへより注意深く耳を傾けるよう注力する。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○「教育理念・目標」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(2) 学校運営

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

○社会で必要とされる優れた人材育成のために、効率の良い運営組織、事業計画を毎年作成している。

○運営組織は毎年4月に発表される。個々の教職員の高いスキルが生かせるよう、人事配置・業務分担等には細心の注意がはらわれている。

○校内でコンピュータシステムを介しての情報共有ができており、学生の授業出席状況・成績・各種資格取得・就活状況等の情報に教職員がアクセス可能。それによってスムーズな学生指導を進めることができる。

今後に向けての方策

○教育活動等に関する情報公開には注力しているものの、十分とは言えない。

H P や学校発行物を通して、更なる情報発信をおこなってゆきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○「学校運営」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(3) 教育活動

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
各学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
授業評価の実施体制はあるか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
成績評価・履修認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	②	1

○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等を行っている。

○授業評価については、年に2回実施しており、学生の授業に対する意見等を細かく拾えるような制度を設けている。結果は全ての教職員にフィードバックされている。

○資格取得については、全ての資格に関して「検定対策授業」を設けており、効率的に勉強できるよう環境を整えている。

○学園主催の教職員研修が年に数回実施されている。学生指導の一助となっている。

今後に向けての方策

○教員会議を実施している。各クラス担任が抱えている問題や指導成功例等を、教員全員で共有することを通して今後のより良い学生指導へ繋げていければと考えている。会議実施回数を増や、教員間の更なる情報共有を促してゆきたい。

○教職員の学生指導力向上のために、本校での研修等を実施してゆきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○本校は業界に精通した優秀な講師が多く、その講師陣が学校を支える大きな力となっていると考える。

業界の今を熟知し、なおかつ指導力のある優秀な講師を常に確保していくことが重要である。(梶原委員)

○講師の先生方の採用については、技術力・業界経験・教育に対する熱意等を考慮した上で慎重に行っています。ご指摘いただいたことを念頭に置き、引き続き高いレベルの教育を受けることができるよう留意してゆきたいです。(学内委員)

(4) 学修成果

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1

○就職率は非常に良好。就職希望学生の就職率は100%を維持している。

1年次4月より、キャリア教育の必修科目が授業に組み込まれている。自己分析、働くことの意味についての理解、業界分析、履歴書の書き方、就職面接等、就職活動に向けて丁寧な指導を行っている。

○退学率の低減に向けて、教職員で協力しながら日々努力を続けている。問題を抱える学生への早期対応を、該当担任を中心に全教職員で行っている。

○卒業生については就職先企業との連絡をなるべく密に取るよう努力している。そのため入社後の動向はある程度把握ができています。

今後に向けての方策

○2020年度の退学率を更なる低減を目指し、より丁寧な学生対応を心がけたい。経済的理由による退学も多いため、2020年度より導入された高等教育無償化制度の利用等の案内も確実に行ってゆく必要がある。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○退学理由は主に何ですか。経済的事情が多いように見受けられますが、いかがでしょうか。

各担任は学生フォローをよく行っているように思います。評価「3」は辛目なのではないですか。(榊原委員)

○退学者の多くが経済的理由で学校を離れていきます。欠席が目立つ学生については、担任から保護者に来校を依頼しています。家庭と学校の両面から学生をバックアップしています。(学内委員)

○本校の退学率は低い。学生と教員、子弟の関係性がうまくいっており、学生は先生の背中を見てきちんと育っていると思う。(榊原委員)

○担任は学生と密にコミュニケーションを取るように常に心掛けています。(学内委員)

○学科によって退学率に差があるのは分野の問題なのか、或いはそれ以外に問題があるのですか？(井上委員)

○学科によって就業意欲に若干差はあると感じることがあります。興味が持てる分野を目指す気持ちを忘れず学び続けるよう、これからも丁寧な学生指導を行っていきます。(学内委員)

○2年間の学校生活を送る中で、将来に向けての明確な目標を見失う学生もいるように思う。そのような学生のサポートは、授業担当講師と担任とのしっかりした連携の下で行ってゆくと良いと思う。(天野委員)

○現在も講師の先生と担任とのコミュニケーションを図るよう留意していますが、まだ足りない部分もあると思われます。今後も更に努力を重ねたいです。(学内委員)

○入学者も就職率も伸びているのが良いと思います。就職した学生はその後どうでしょうか。すぐに辞めたりはしていないのですか。(後藤委員)

○卒業後の離職率は低いと思われます。卒業後、早期の退職希望の卒業生のほとんどは、担任に連絡を入れます。転職の申し出があれば紹介もしています。(学内委員)

- 就職率が100%というのは、親としては大変嬉しいです。昨日はオンライン ZOOM の授業の様子を見ていて、先生方がしっかり指導してくださることに安心できました。普段の授業の充実が、高い就職率に繋がっているのではと思います。(高木委員)
- レベルの高い授業展開が、良い学校の条件だと考えています。学生、及び保護者の皆様に納得していただける授業を展開してゆきたいと思います。(学内委員)
- 今年の内定率はどうですか。新型コロナウイルス関連で内定取消は実際にありましたか？今の2年生の就職確保がやはり心配です。先日、花屋に行ったら切花がとても安く売られているのを見ました。ブライダル業界も予約のキャンセルが出ていると報道されています。今年も何とか高い就職率を維持していただきたいです。(梶原委員)
- 厳しい状況下にありますますが、それでも学生は就職活動を進めております。就職活動につきましては、オンラインでの面接が圧倒的に増えてきています。新型コロナウイルスの感染拡大が収まりを見せれば、就職率は例年のレベル近くまで戻ると考えています。(学内委員)

(5) 学生支援

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
進路に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	③	2	1
学生への経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1

- 年に1度、春に健康診断を実施(全学生・全教職員対象)。また、毎年4月に学生健康調査を実施。これらの結果を踏まえて、卒業までの2年間の学生健康管理を行っている。
- 経済的な支援には、国の教育ローン(日本政策金融公庫)、日本学生支援機構の奨学金、高等教育無償化制度による奨学金などがある。また、入学時には指定校推薦・公募推薦の高校推薦入試枠による入学者に対しての学費減免がある。
更に、本校特待生選考制度利用による学費減免も用意している。

今後に向けての方策

- 保護者に対しては、保護者対象のフラワー体験授業、後援会総会、学園主催教育懇談会(対象：後援会役員)などの機会に本校の教育活動の周知を図っている。それに加えて、学生の様子をより良く知るためにも担任と関わる機会を増やしてゆく必要がある。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 「学生支援」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(6) 教育環境

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

○施設・設備に関しては、3分野の実習授業で必要となるものを完備している。

○学外の実習授業・インターンシップについては、関連分野の企業との連携のもとに進めている。

○自衛消防組織をつくり、防災に努めている。

今後に向けての方策

○防災に対する学生への意識付けがまだ弱いように感じる。火事・地震等の発生時に「自分の身は自分で守る」という意識付けを徹底させたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○例えば授業中に地震が起こった場合、机の下に隠れた後どうしたら良いのかを、学生や講師が確実に理解できていますか。(井上委員)

○防災訓練は年に1度行っていますが、その訓練時に居合わせない学生や講師の先生等にも丁寧な説明を実施してゆきたいです。(学内委員)

(7) 生徒の受入れ募集

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④	3	2	1
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

○例年、入学生の多くが高校卒業後すぐに本校へ入学している。高校現場より、卒業生の本校での様子や就職先についての情報を求められることが多い。それゆえ、本校職員の高校訪問時に訪問高校の卒業生の動向についてしっかりと説明を行っている。

○他校による、AOエントリー（6月から受付）による早期の学生取込傾向がある。本校では、AO入試以外の試験区分も視野に入れた慎重な学校選びを高校生に推奨している。結果、本校では高校推薦入試を希望する学生が多い。

○募集活動において、取得可能検定や最新の就職先案内を行っている。

今後に向けての方策

○本校の教育内容について、高校生や高校教員へしっかりと伝えてゆく更なる努力が必要である。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- オープンキャンパスに参加して、実際に入学した学生はどれくらいいますか？この学校をまだ知らない人にもこのような優れた学校があることをより広く知らせることができれば良いと思います。私は昨年、子供と一緒にオープンキャンパスに参加した折に、先生方や在校生のみなさんの対応が良く、また体験実習の内容も充実していたので良い印象を持ちました。（高木委員）
- 本校では、オープンキャンパスに参加した高校生の約半数が実際に入学しています。学校のHP・SNS・ダイレクトメール、校内相談会、会場ガイダンス、更には高校訪問等を通して、学校の周知に努めています。より効率よく効果的に、高校生、保護者、高校に対して本校の情報提供ができるよう努力してゆきたいと思います。（学内委員）。

(8) 財務

評価項目	適切 = 4 やや不適切 = 2	ほぼ適切 = 3 不適切 = 1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3)	2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3	2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3	2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3	2 1

- 学校の収入源の第一は学生生徒等納付金収入であることから財務の基盤は在籍数となる。31年度の入学者数は前年より微増となったが、在籍数としては減少し、28年度より3年間、在籍数は徐々に減少している。財政基盤を安定させる為、定員の充足が必要となる。
- 在籍数は減少しているものの、経費削減に努め、当年度収支差額はプラスを維持しており、長年の翌年度繰越収支差額のマイナスも改善されてきている。
- 学園本部による内部監査が年2回、公認会計士監査が年3回行われ、適正な会計処理を行っている。学園の財務情報はHPにて公開されている。

今後に向けての方策

- 18歳人口が減少を続ける中、財務基盤の安定のためにも定員充足率を高めていくための広報戦略を練る。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 「財務」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切 = 4 やや不適切 = 2	ほぼ適切 = 3 不適切 = 1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3	2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4) 3	2 1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 (3)	2 1
自己評価結果を公開しているか	4 (3)	2 1

- 法令、専修学校設置基準等を遵守し、円滑な学校運営を行っている。
- 個人情報に関しては、学生及び教職員に関する一切の情報の持ち出しを禁止している。
- SNSを利用して広報活動を行う機会が多くある。学生の写真等が掲載される場合には、事前に掲載の可否を必ず本人に確認している。

今後に向けての方策

- 自己評価は、2020年より公開し、問題点に関しては教職員で共有する。
- 自己評価結果を踏まえて、それを次年度へ活かしてゆく体制を整えてゆきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 「法令等の遵守」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励しているか	4	3	②	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

- 社会貢献・地域貢献については、以下の通りである。

- ブライダルビジネス科・・・本物の結婚式プロデュースの実施（無償）
- フラワービジネス科・・・星ヶ丘テラス/ガーデン施工（無償）
名古屋市役所西庁舎/花壇植え込み（無償）
MOZOワンダーシティ/フラワーショー（無償）
- トータルビューティ科・・・校内ビューティサロン（ワンコイン）
老人保健施設/エステ・メイク等（無償）

今後に向けての方策

- 授業や課外活動を通して、社会への貢献活動を継続する。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 本物の結婚式の実施は長く続いており、本校での結婚式プロデュースを希望される方も多い。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響はあるが、収まれば今年度も是非行っていくべき行事だと思います。（榊原委員）
- 本物の結婚式は、一般の方のみならず、卒業生や、以前本校実施の本物の結婚式に参列された方からも、プロデュースの依頼がたくさん入ります。本物の結婚式は準備に時間がかかりますが、それでもなるべく多くの方のご希望に沿えるようにしてゆきたいと思います。（学内委員）